



俳優・プロデューサー・ドローンパイロット

しもきょう けいこ さん 下京 慶子 さん

「何かエンタメに関わる仕事が見たい」と思うようになったきっかけは、中学生の時に見た「レ・ミゼラブル」のビデオ。自分で舞台に立ちたいというよりも、制作や脚本などといった裏方がしたいと思うようになりました。面白い作品にもっと触れたい！と海外志向も強かったのですが「日本のプロが集まるのは東京だから、まずは一流を知った方が良い」という知人のアドバイスから、東京の大学に進学。大学では脚本を書いたり、アルバイトのお金を注ぎ込んで様々な舞台や映画を見たりして

いました。物語を創るためには現場や芝居の事も知っておかなければならないと考え、大学卒業後に舞台上に上がるように。お芝居をするようになって何気ない日常や周囲の人たちに想いを馳せ「生きる」ということを深く考えるようになりました。同時に、昔とは世界を見る目が変わっていた自分に気付き、俳優は後々やめるつもりでしたが、このまま続けた方が人生が豊かになると感じ、俳優と制作の両方をしたいこうと覚悟を決めました。プロデューサーを目指したきつ



【右】「やっているととにかく楽しい」と語るドローン。6年前は、今ほど業界でも使用する人は少なかった。
【左】縁の下の力持ちになればと思い進んだ道。昔は、自身が表立って芝居をするとは夢にも思っていなかった。ショートドラマ「大人に恋はムズカシイ」ではプロデューサー兼主演を務めた。

information

鹿屋市出身。両親の転勤で幼少期を奄美大島で過ごし、小学6年生の時に再び鹿屋に戻ってくる。鹿屋東中学校では吹奏楽部に所属しサクソを演奏。3足の草鞋を履いているため、なかなか休日がなく忙しい毎日を送っているとのこと。

かけは、変わっていく故郷を映像に残したいと思ったこと。その矢先、地方創生の映画事業をしていったプロデューサーさんとお会いし、その方の元で学びながら令和2年の映画「たぶん」で初プロデューサーを務めることができました。また6年ほど前、人生で初めての趣味がドローンだったのですが、そのとき出演していたドラマのスタッフさんから「空撮を使いたい」との話があり、なんと私が撮影することに。その後、空撮を仕事として依頼されるようになり、ドローンパイロットとしても映像に携わるようになりました。大学を卒業して10年、その頃の私と比べてできることがたくさん増えました。今まで全力でひたすら走ってきましたが、「自分が本当に何をしたいのか」を考えながら、私の一つの夢である「鹿屋で映画を撮る」という目標に向かって今後も頑張りますので、ぜひ応援してもらえると嬉しいです。